



## イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 637 回 不快な…カタカナ用語の濫用

2015.7.12

「当社ユーザー用にカスタマイズしたコミットメントをエビデンスとして、コンセンサスをフィックスさせること。ジャストアイデアはすべてペンディング、スペックを高めたデフォルト・メソッドとして確立させること、それが君に与えられた至上タスクである。」～～～なんのこっちゃ？

何を言っているか、お分かりか？まったく日本語になっていない。

それもそのはず、その酷さを極論するため、無理やり私が作った例文である。

普段われわれは、それほど意識しないまま、日常的に「カタカナ用語」を使っている。

むしろ現在では、カタカナ用語を使わずに日本語は書けないと言えるかもしれない。

こんなカタカナ用語に関して、『リクルートホールディングス』が発行しているフリーマガジン『R25』に、「日本語で言え！不快なカタカナ語」という刺激的なタイトルの記事が掲載されていた。

R25 が選ぶ「16 個の不快なカタカナ語」である。

1 位 コミットメント(約束、集中する)	11 位 シナジー(相乗効果)
2 位 ユーザー(利用者、消費者)	12 位 タスク(仕事、やるべきこと)
3 位 エビデンス(証拠、確証)	13 位 ブラッシュアップ(良くする、練る)
4 位 スペック(能力、性能)	14 位 タイト(厳しい、時間がない)
5 位 アジェンダ(議題、課題)	15 位 メソッド(やり方)
6 位 コンセンサス(合意)	16 位 デフォルト(標準、基本、初期設定)
7 位 フィックス(決定)	
8 位 ジャストアイデア(思いつき)	その他…カスタマイズ、コンプライアンス、
9 位 シェア(共有)	ミッション、ガバメント、アライアンス
10 位 ペンディング(保留、中止)	アカウントビリティ、マニフェスト等

別に外来語の使用を制限すべきとか、そんなことを言う気は全くない。

どんな言葉遣いをしようが良い訳で、それも、その人の「個性」と言うのかもしれない。

立派な日本語があるにもかかわらず、一般社会や役所の文書にまでも、カタカナ用語が濫用されていると嘆く方もいる。

まあ、そこも程度問題で、日本語として使うのは、濫用でない限り差し支えないと思っている。

問題は何回も出てくる「濫用」だ。

話したり、書いたりすることは、言葉を使い文章を作り、「人に理解して貰いたい思い」を伝えることであろう。この伝えることがコミュニケーション、一方的では寝言や独り言と同じになってしまう。

「濫用」とは、このコミュニケーションを阻害するものと定義したい。

つまり相手が理解できない言葉、意味、使い方、繰り返すくどさで、相手への気遣いが無い、自分勝手なしゃべり方と言うことかもしれない。

カタカナ用語然り、誰も知らない専門用語、楽屋オチの業界用語、「ネトウヨ」等流行造語等は、気を付けるべきと言えよう。使う方はそれほどの悪意はないのだが、聞かされる方は…「偉そうに」「かっこつけて」等々、どうも不快感を抱きつつ、なんとなくイラッとして、とにかく理解できないでいる。

御意！ 人の事にあらず、自分自身、気を遣うべし！！